





### 市民会館跡地利用に関するアンケート(安井地区センターにて実施中)

ご協力お願いします

▼市は、市民会館(新田町1-2)を令和5年度末に廃止し解体する方針を示しております。市民会館は、昭和43年4月に建設されました。50年以上の間、文化芸術事業を担い、そして行政に関する各種手続きをする場として、安井地区住民に親しまれている施設となっております。

▼住民のみなさまから声をいただき、市政に届けたいと思っておりますのでアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。



JIAM「自治体財政研修」10/19~21  
「防災と議員の役割研修」11/21~22

岐阜市自動運転バス実証実験に参加10/23

「火災予防運動キャンペーン」11/5  
「おおがき防災フェス」11/6



10/25 大垣競輪場見学

江崎自治会のみなさんときれいになった競輪場を見学しました。



11/8~9 山形県鶴岡浄化センター、新潟市アグリパーク、三条市水防学習館視察

▼鶴岡浄化センターでは、下水道処理水や汚泥(もとはウンチや尿)をきれいに処理して肥料にしたり、アユの養殖を行っていました。▼新潟市アグリパークは、日本初の公立教育ファームです。6次産業化支援と教育ファーム、就農支援の3つの機能を持っており、農業に関する体験施設のほか、宿泊施設、レストラン、農産物直売所などが設けられていました。▼三条市水防学習館は、競馬場跡地を再利用、三条市で発生した二つの大きな水害を記録し水防を学ぶための施設となっていました。



11/12 ふれあい料理教室

(公財)岐阜県学校給食会の親子料理教室に参加しました。



11/25 大垣市議場見学

地域のデイサービスご利用者様を議場にご案内しました。



11/30 北消防署竣工式



12/2 大垣衛生センター見学

高校2年生の生徒さんと一緒に大垣衛生センター(荒川町)を見学しました。パキューム車が集めてきた「し尿」がきれいになって大谷川に放流されるまでを学びました。



## 好書好日 Good Life With Books

「まんが道(愛蔵版)」全四巻 藤子不二雄 作 / 「アオイホノオ」(1~27巻) 島本和彦 作

▼「まんが道」は、1970年代に発表された藤子不二雄の自伝的漫画です。まんがという「夢」に生きた二人組の人生ストーリーです。誰でも人は「夢」をもちます。しかしたいがいは現実の壁にあたって、その「夢」を捨てていきます。大人になるということは、一般的には夢を捨てることとされています。しかし、この二人は夢を捨てずに、そこに向かって進もうとします。私は小学生の時にこのまんがと出会い、人生のバイブルとしています。新年にあたり、若いみなさんには、ぜひとも夢を持ちつづけていただきたいと思います。

▼「アオイホノオ」は「現代版まんが道」ともいえる作品です。作者の島本和彦は庵野秀明(『新世紀エヴァンゲリオン』や『シン・ゴジラ』で有名)と同じ時期に同じ大学に通っており、青春時代を振り返る形式をとっています。実在の人物も著名



な作品もいっぱい出てきます。まんが道の主人公と違い、マンガ家を目指すけど、目指しているだけで行動に移すことが出来ない何処にでもいるような中身の無い主人公に自身(作者)の姿を投影しています。その辺がいまだきっぽいですが、新しい何かを生み出せる人とは、何かに没頭して熱中できた人間なんだと実感します。登場人物全てが眩しいばかりの熱意にあふれています。ぜひ、80年代に青春時代を過ごした人、これからの若い人にも手に取っていただきたい1冊です。もしかしたら、人生の羅針盤になるかもしれませんよ。

「ちとせ」高野知宙 著 祥伝社

▼京都文学賞受賞作。物語は明治5年の京都。天然痘にかかり失明の不安を抱えた少女ちとせは、鴨川でひとり三味線をひいていた。閉じていく視野の中での折々の風景、京の人々の風景。いつのまにか物語のなかに吸い込まれていきます。なお、作者は17歳の女子高生。そのお母さんは安井小学校卒業生(私の後輩)です。ぜひ、手に取ってくださいませ。



**後援会へのご入会をお願いします!**

※ご連絡いただければ、入会案内をお届けさせていただきます!  
(受付はFAX・メール・携帯 ホームページからでもできます)

**種田昌克プロフィール**  
1969(54)年9月生まれ  
安井小学校▶東中学校▶大垣北高等学校▶早稲田大学文学部▶大垣市役所▶参議院議員秘書▶大垣市議会議員(1期目)▶現在、安井小PTA会長、市議会建設産業委員会副委員長、市民病院に関する委員会副委員長。

